



九条ブログはらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 4 4

2007(平成19)年12月 8日(土)発行

＜ハワイ時間の1941(昭和16)年12月7日(日)は、日本軍によるハワイ真珠湾奇襲の日＞
南雲忠一中将の日本軍は、南千島の択捉島の単冠湾(ひとかつぶわん)を11月26日に発進。「新高山(にいたかやま)ノボレ1208」の暗号で真珠湾の奇襲を敢行。「新高山」は戦前の日本領土で最も高い山(台湾の玉山ユイシャン3997m)のこと。また、アメリカ議会の対日宣戦決議で上院は満場一致で可決、下院では賛成が388票、たつた1票の反対票を投じたのが「ジャネット・ランキン」という1880年生まれ的女性議員で、現在再び注目を集めています。

このニュースは<http://sousou9.web.fc2.com> あるいは「相双地区九条の会フォーラム」、さらに「はらまち九条の会」で、1号から全号を見ることができます。相双地区の他の会のニュースもどうぞ!

参加者25名 2時間もアツという間でした! <第2回学習会・世事万端放談会>



12月2日(日)午後2時から、原町区本町の銘鑑館で「第2回学習会」が開催されました。司会進行は事務局の早坂吉彦さん。参加者25名がひとり一人、日頃お考えのことなどをお話ししました。予定の2時間もアツという間で、コメンテーター佐々木孝さんがコメントする時間もないほどでした。数回に分ければもっと発表の時間が多く取れたかなと反省も残りました。以下、お話の要旨です。(文責・事務局山崎)

◎あいさつ・コメンテーターの佐々木 孝さん◎
原町に住み、やがて上京、5年前に帰ってきました。同級生が町にいて声をかけてくれたり、こういう会でお話できたり、昔の友人に会えるのが嬉しいことです。原町はないないづくしの町ですが、都会志向や物流や経済で考えたり投機で動くのではなく、地方都市の生きる方策を考えて若い人に住みよい環境を残すことが大切と思っています。九条の会の運動は、まさに「命」に関わることでからイデオロギーを越えられる問題です。南相馬市議会への「九条の会の意見書」などは、当然採択されていいはずですよ。

■戦争はエコロジー(自然環境保護)と全く逆のことで、最大の環境破壊です。文明を追いかけようとエコとかけ離れて行くんですね。(Kさん)

◆南相馬市議会に提出の「憲法9条を護る意見書」は、総務委員会で不採択となりましたが、12月の本会議(議員26名中24名)で、賛成・反対の最終議決を取りますが、採択か不採択かは微妙な状況です。皆さんもお知り合いの議員さんに「憲法を守ろう、意見書に賛成を」とはたらきかけてください。どんなことがあっても私は戦争には反対です。(小川尚一氏・南相馬市議会総務委員長)

◆委員会で不採択の「憲法9条を護る意見書」ですが、小川さんのお話では、まだ採択される望みがありそうですから、頑張りましょう。(平田慶幸会長)

◆私が生まれて百日目に父は出征し戦死しました。それで平和運動に関わっています。14年前に原町に戻ってきましたが、原町も大きく変わり、産廃処理場建設など大変危険なことが行われようとしています。政治に関心を持つべきです。(Aさん)

■私は「生活と健康を守る会」を作り活動しています。来年度から75歳以上の方でも扶養から分離され健康保健料が年金から差し引かれるようになります。本当にひどいことで、一体政治は誰のためにあるのかと怒ってしまいます。

でも、南相馬市も大型事業や道の駅問題など、市民の関心も高まり、市民の声が大きく出てくるようになってきていると思います。……………(Aさん)

◆私は子どもの頃、白い衣服の傷痍軍人と町で出会い大きな衝撃を受けました。事務局員として積極的に活動していきたい。……………(事務局員石田賢二さん)

◆私は昭和2年生まれですから、子どもの頃から青春時代までずっと戦争でした。これからも信念をもって、平和のために活動していきたい。(Sさん)



◆憲法を日常の生活に生かすことが大切でということで、36年前私たちは市に働きかけて、あの『憲法』の小冊子を作り市内の全戸に配布しました。また、南相馬市議会に提出の「意見書」の総務委員会の議論の中で、自衛隊について、「どの家庭でも家や家族を守るための『戸籍まり論』」の発言が出てきましたが、こんな古くさい30年も前の理論はもう通用しません。国家間で信頼を築いて外交でやっていくべき時代です。

それに、小高区出身の市会議員さん3名のうち1名が賛成2名が反対で、郷土の憲法学者鈴木安蔵を立てようとしなかったり、その安蔵が作った憲法を尊重しないということはどういうことか、全く理解できません。たとえ「意見書」が不採択でも事務局は挫折や失望を感じる必要はない。時には泥臭くでも、粘り強く運動を続けなければいけません。……………(Sさん)

◆私は昭和6年生まれです。今問題になっていますが、沖縄戦の自決で軍の命令や強制があったことに関心をもっています。……………(Sさんは学習会の終了後すぐ、九条の会に入会されました)

◆私は国民学校最後の卒業生です。『九条ブログはらまち』No.32の「通知簿」の文言は本当にひどい。一体あの太平洋戦争は何だったのか、「自存自衛のアジアの解放のための正義の戦争」と言われましたが、結局それは全くの虚構だったと思います。(Sさん)



■コメンテーターの佐々木孝さんは原高の大先輩で、今日お会いしたくて私は出席しました。あまり知られていませんが、1965年の第8回福徳県母親大会が原町第一小学校で開催されていますが、その記念講演会の講師として「鈴木安藏」が来ています。また先日、南相馬市議会に提出の「9条を護る意見書」が、市議会議員が26名いるのに、総務委員会の9名だけで採決が決まり、五分の一の20%の反対で不採択となり、規則とはいえ納得いきません。道の駅問題などとは比べようもない、もっともっと次元の高い重要な問題のはずなのに。また、先月29日までカンボジアに行ってきました。2人のガイドさんが「戦争は絶対にいけない」と何度も話し、長かったカンボジア内戦での傷痍軍人がいたり、地雷の被害者の姿も多く、60年前の日本と同じでした。戦争は普通の人からも多くのものを奪ってしまうと実感しました。… (Hさん)

◆先日の小沢民主党代表と福田首相との大連立会談について、皆さんのご意見をお聞きしたいと思って参加しました。私は以前全共闘で活動しましたが、戦争反対のためには命をかけ、体をはってやらなければならないと思います。



相手は国家権力ですから。(Mさん)
◆個人的なお話ですが、私は1935年生まれ。天文少年で「ハレー彗星を見たい、それまで生きたい」と思っていました。1986年のハレー彗星は期待を裏切るものでした。また子どもの時「21世紀を見たい」とも思いましたが、ひどい時世になるのではないかと思います。今は「80歳まで生きたい」と考えています。… (Wさん)

■原町に嫁いで30年になります。戦争はイヤです。私の親はいわゆる「二代継ぎ」(家を存続するため、戦死した夫の弟と再婚すること)で、母は戦時中、幼い兄、姉と祖父母、曾祖母の生活を守り、復員した父と再婚し、私が生まれました。私自身いろいろ心の中で早くにクリアしてきましたが、同じ状況の家庭で深く悩んでいた友人もいました。60年経った今でも、戦争を引きずっていますし、戦争で幸せになる人はいません。

私と憲法との関わりですが、入試に憲法前文が毎年出題されているのを先輩からの情報で知り、憲法の前文を暗記し、戦争放棄の9条を強く認識したのを覚えています。… (Tさん)

◆私の家は『九条プログはらまち』No.43の裏ページの原町飛行場の地図のところ。 (話が得意でない)のでと言いつつ、菅野啓明さんは学習会の最後に見事な篠笛を演奏披露してくださいました。

■私は会社を経営していますが、経営者の集まりで「企業はいい人材を求めている」という意見が出ます。それはよく考えてみると、「会社のため、国のためになる人材」を「いい人材」というだけです。学校はものをしっかり考える人材を育てるのではなく、企業に役立つ人材を育てることが目的になっている。ですから、家庭の教育をしっかりしないといけません。

その意味でも「九条プログはらまち」No.32に掲載された戦時中の小学校「通知書」の「お国のために闘う」という文言と、全く同じです。

また、若い会社員が、大阪神戸の大震災の直後に、焼け野原を歩いて戦争後の焼け野原を連想し、「あの光景は本当に恐ろしい、戦争は絶対してはいけない。一生忘れない」と話していました。(Tさん)

■「いっしょに憲法を守りましょう」と話した時「憲法」と「法律」の違いを認識していない人がけっこういます。『九条プログはらまち』No.40にその区別を明記してあります。「法律」は私たち国民の自由を制限して社会の秩序を維持するためのもの、「憲法」は国家権力を制限して国民の人権を守るためのものです。

また「北朝鮮が攻めてきたらどうする」という軍事的脅威が言われますが、日本との国力や軍事力を数字で比べれば実体がよく分かります。GDP(国民総生産)は日本が500兆円・北朝鮮2兆円、国防費は日本5兆円・北朝鮮0.7兆円で、その差はケタ違いです。その大差の現実を無視し、日本政府は不安を利用して脅威を訴え軍事の拡大をめざします。(事務局員 澤田子さん)

■あまり大きなニュースとして取り扱われていませんが、海外派遣の自衛官が35名も死亡し、うち自殺者が16人もいます。国会で社民党議員の質問に政府が答えたもので「下の記事」、死因不明の方もいます。もしも戦闘で亡くなっていたら、大変なことです。皆さんでしっかり注目しましょう。… (Kさん)

海外派遣の自衛官 在職中に16人自殺 テロ対策・イラク支援 政府は13日に閣議決定した答弁書で、テロ対策特別措置法とイラク復興支援特別措置法に基づき海外に派遣された自衛隊員のうち計16人が、在職中に自殺していたことを明らかにした。社民党の照屋寛徳衆院議員の質問主意書に答えた。	ち、死因が「」だったのは、陸自が7人、海自が8人、空自が1人だった。派遣と死亡との因果関係については、「一概には申し上げられない」とし、退職後に精神疾患になったり自殺したりした隊員の数については、「把握していない」とした。
答弁書によると、今年10月末現在、海外に派遣された隊員のうち在職中に死亡した隊員は、陸上自衛隊が14人、海上自衛隊が20人、航空自衛隊が1人。このうち	テロ特措法に基づきインド洋に派遣された海上自衛隊員は延べ約1万9000人。イラク特措法に基づき派遣された隊員は、今月7日現在、陸自が延べ約5600人、海自が同3300人、空自が同2870人となっている。

▲11月14日「読売新聞」コピー

- ◆『日本の青空』上映会でも若い人の参加が少なかったようですが、若い人を参加させたい。(佐々木孝さん)
- ◆憲法改定に賛成でも反対でもない中間層や無関心層をこちらにとり入れたいですね。(Wさん)
- ◆事務局では今、南相馬市の成人式や高校の卒業式に複製の「憲法」小冊子を贈ろうと計画し、若い人に憲法をと考えています。(事務局員 山崎健一)
- ◎今日は皆さんで会ってお話をするの大切さを感じました。有意義な学習会で、とても良かったと思います。ありがとうございました。(コメンテーター 佐々木孝さん) ◎

●学習会の中で、特に「海外派遣自衛官の多数の死亡者」の話には驚きました。以前週刊誌で知っていたものの、これを日本のマスコミは大きく取り上げようとはしません。国民が派遣そのものに疑問をもっては困るのか、政府与党の大きな力の感。様々な問題で国民に知らせないまま、国民が知らないで事態がどんどん進んでいる。国民がたまさか賢明にならないといけません。年金、薬害訴訟、防衛省の贈賄疑惑なども同じです。

●今号も欲張りでたくさん載せようとして、またまた大変読みにくい紙面になりました。お許しください!